

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で安心して明るい生活を送れるよう施設運営理念に「やまびこ理念」を活用し、地域の介護ニーズに応じたサービスを提供する。やまびこ荘の理念はホームの目に付きやすい位置に明示してある。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング、月1回の全体ミーティングを通し話し合い、目標を掲げ日々取り組んでいる。	○ 運営理念「やまびこ理念」を日々の介護に活かす様、いろいろな機会にミーティングの実施を増やしていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は誰でも見えやすい所に明示してある。家族や地域の人にも機会に応じて説明され、理解して頂いている。	○ 推進会議においても、発生した問題を「やまびこ理念」で処理して、事例を報告し理解を深める努力をしている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の人への挨拶をしたり、声を掛け合っている。野菜を頂いたり、畑の指導を受けたりもされている。町内会等の行事参加、幼稚園との交流もされ、やまびこ荘を理解してもらおうとともに、交流を図るための働きかけを行なっている。	キャラバンメイトとして地域の認知症普及活動に参加している。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価を実施し、全体ミーティングにて評価のねらいや活用方法の理解を深めている。外部評価の結果を基に改善し、より良いケアに繋げる為の取り組みをしている。		
6	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議において、施設での介護全般や評価について発表し、地域、入居者、家族からの意見をサービスに活かしている。		
7	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南地区包括支援センター担当者に運営についての問題等の処理方法について、発生時にすみやかに相談しサービスの質の向上を計っている。	○	地域の他施設との介護サービスについての情報交換会に積極的に参加し、サービスの向上に反映させる様に努力している。市町村担当者が運営推進会議に参加して頂けるよう働きかけていきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修や運営推進会議で各専門分野からの意見を、全体ミーティングの場で話し合い理解を深めている。必要な入居者と制度について、活用について、支援している。		
9	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修等で得た情報を、全体ミーティングで研修し、情報の共有を行い理解を深めている。職員もお互いのケアを観察しあい、相互チェックをする事で、未然の防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約をする際には不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解、納得してもらうようにしている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を日々のケア、生活の中で聞きだし対応策の検討などがされている。意見や苦情をより良いサービスの提供、向上へ結びつけるよう努力している。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームだよりの発行や健康状態は、「そのつど一人ひとりにあわせて、報告している。金銭管理は、出納帳に記載し領収書と一緒に郵送している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を上手く活かせるよう、また上手く取り入れ、サービスの向上に結びつくよう全職員で話し合い、ケアに活かしている。荘内にも苦情窓口が設置してある。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度、全職員で全体ミーティングにて意見を出し合い、ケアの向上に活かしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活を適切に支援できる人員配置になっている。必要な時間帯、行事等は増員、急な勤務変更時にも変わりの職員を確保出来る体制がパート職員により整えられている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動を最小限に抑え、やむを得ず移動の際には、詳細な引継ぎを行なっている。移動、離職の際には利用者のダメージに配慮し、一人ひとりに最善の対応を行なっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は力量や、経験に応じた研修を受講している。受講者は報告書を作成し、全体ミーティングにて資料を配り報告会を行い、全職員がトレーニングできる機会を作り周知徹底を計っている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行なわれている勉強会（研修会）に積極的に参加し、サービスの質の向上の為に努力している。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員からの悩みを聞く努力はしている。不定期で親睦会を開き、職員の慰安や交流を行なっている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断実施等、職員の心身の健康を保つ体制が整えられている。職員の日々の努力や勤務レベルに応じて、介護についての向上心が高まる様、研修や講習の機会を作り実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に、本人、家族と直接面談し、話を聞き、身体状況、困っている事、不安な事、希望等をよく把握し、信頼関係を築くよう対応している。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、対応できる事は、すぐ実行しすぐにできない時は、検討しできる限り対応するように努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要な情報を家族等より受け、本人が安心して生活できるように、ケアされる側と相談しながら、馴染めるように工夫している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は個人それぞれの得意分野（裁縫、食事支度）より学んだり、一緒に作業したりと毎日支えあいながら過ごしている。	○  得意分野の活躍の場を設けることで、生きるハリや今後の意欲に繋げることができるようにしている。（アクティビティ、家事作業、会話など）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族へ利用者の生活ぶりを報告し、情報交換を行い、利用者を共に支えていく関係を築いている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員皆が本人と家族との関係を理解しており、互いに気軽に会話をし、より良い関係が築いていけるように努めている。小旅行や敬老会などに家族も招待し、触れ合い、理解しあう場を設けている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のなじみの人や場所をアセスメント等により、詳しく把握し、交流の機会を作っている。又、希望の場所やなじみの場所にいつでも出掛けられるように聞き入れ支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が共に活動や作業を通じ理解し、支え合っていけるよう職員が間に入り一緒に行動し連携を深めている。相性の悪い人同士、トラブルにならないよう職員が居場所等調整している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も、その後の状況を把握し、連絡をいつでもとれるよう体制を整えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や、入居者同士の会話から希望を聞き出せる雰囲気作りをしている。又、行動観察を行い本人の思いを見い出せるように考察しながら接している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、本人との会話などよりアセスメントを作成し、これまでの暮らしを把握するよう努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務日誌、ケアプラン、アセスメントを利用しながら毎日の申し送りやケアカンファレンスを行い、生活のリズムやADL状況を正確に把握しケアに活かしている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアに関わる運営者や全職員で話し合い、家族の意見、要望を取り入れたケアプランを作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直し、必要に応じて随時話し合いをし、状態に合ったプランの変更をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を明確に介護日誌に記載し、職員全員が目を通してしている。朝の申し送り、ケアカンファレンスで伝達し、ケアプランの見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人のかかりつけ医、希望の病院への受診支援、他施設（陶芸教室など）の参加、訪問マッサージなど希望に応じた支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議（2ヶ月に1回）にて、町会長、婦人部長（民生委員）、警察、消防、幼稚園等、参加していただき相互に支援できる体制が整っている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月1回の理容サービスの提供、希望する理美容院の活用支援（予約、送迎）訪問マッサージの利用も支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議、会議外でも包括支援センターに相談し、指導、助言を求めたり、協働でいろいろな問題の解決を計っている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族から希望を聞き、定期的に往受診し、相談できる協力医療機関を確保している。常に、適切な医療をうけられるよう支援している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医への受診の支援を行なっている。かかりつけ医との連携、情報交換を密に行い、個人個人に合った支援をしている。		
42	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格を持つ職員の配置。かかりつけの医療機関の医師、看護師への相談、指導の体制が整っており、それぞれの問題に応じて支援している。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、病院との情報交換は密に行なわれている。家族、職員とも話し合いをし連携されている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師らと話し合い、全員で方針を共有している。皆が納得するまで繰り返し話し合いをし、介護方法等について念書も作成されている。	○	早い段階での意志の確認、話し合いを持っている。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者や家族の意向を踏まえた上で医療機関や家族との連携を図りながら支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	住み替えによるダメージを最小限に食い止める 為、施設間、家族との情報交換を密に行ってい る。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
47 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた声掛けや対応の仕方を職員 皆で話し合い、プライバシーを損ねぬように配慮 し接している。個人情報も、ホーム内だけの情報 とし、慎重に扱っている。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	本人の希望通りに出来るよう、選択を促し自分で 決めてもらうようにしている。好みや意志を把握 し、働きかけを行なっている。		
49 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	常に利用者を優先し、一人ひとりのペースを把握 し、希望に沿って過ごせるよう支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	本人の希望に応じて、行き着けの美容院への利用 を支援している。衣服は、好みのものを着てもら うが、身だしなみに配慮し、さりげない助言や援 助をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の好みを聞き入れたり、旬のものを取り入れている。野菜の下ごしらえ、配膳準備、下膳等、力を活かし、職員も利用者と共に会話を楽しみながら食事を摂っている。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握しており、健康に害にならない程度に生活に取り入れてもらっている。嗜好品を取り入れる際、安全確保、他者に迷惑が掛からないように配慮している。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、情報伝達している。自立を促す為、支援は必要最小限にしている。また、プライバシーにも十分配慮している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴となっているが、いつでも入浴出来る体制は整っている。一人ひとり希望の入浴方法を取り入れながら支援している。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠チェック表で、一人ひとりの睡眠パターンを把握している。必要に応じて医療機関と提携し眠剤の服用も取り入れているが、薬に頼らないよう日中の運動や行事への参加を促している。	○	寝付けない利用者に対してのケアを勉強し、職員間で話し合い工夫していきたい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの役割を持ってもらう事で、生きがいにつながるように促している。得意な事を把握して支援している。	○	更に様々なアクティビティや家事作業、活動に触れる機会を増やし、得意なものや生きがい作りに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者が自己で金銭管理出来るよう支援している。支払いの際等、必要な声掛けや促しは行なっている。又、必要事項については家族との連絡も取っている。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、病院の他、気分転換のドライブなど、外に出る機会を設けている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度の夕食や買物、ドライブ、リンゴ狩り、年に一度、家族と共に小旅行などを行なっている。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機を設置しておりいつでも利用できるようなっている。手紙は必要に応じて代読、代筆しプライバシーに配慮しながら支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも訪問できる体制を整えている。宿泊希望も受け入れ、食事や寝具の提供も行なっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で禁止の対象となる行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアを実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけずに開放されている。又、ドアに呼鈴をつけ、出入りの確認をしています。外に出る際には必ず付き添うようにしている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、プライバシーに配慮しながら、入居者全員の様子を常に把握するよう気をつけている。危険を察知し安全を心がけている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、所定の鍵付きの場所に保管されている。一人ひとりの状態に応じ、自分で管理できる人には見守りをし、支援している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事前の防止、予防を心掛けている。避難訓練や救急法を研修等で、予防法を復習、確認している。	○	夜間やさまざまな事態を想定した避難訓練を実施していきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルが作成されている。又、職員は応急手当、救急救命の研修を受講しています。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練が実施されている。災害時用の食料や生活用品も常に準備されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクを把握し、状況変化に応じて、対応の見直しを行なっている。緊急時の対応等、場合の応じて全職員で話し合い、決めている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化、異変の早期発見に努め兆候があった時には速やかに対応している。特変時、異常時は日誌に詳しく記載し、情報を全員で共有している。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を日誌にファイルしいつでも内容を確認、把握できるようにされている。薬の変更なども、日誌、申し送りで情報伝達している。誤飲や、飲み忘れがないように確認している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼らないように、手作りヨーグルトと、すりおろしリンゴ、を摂っている。午前、午後の健康体操、中庭でボール遊びなど体を動かす事を促し便秘予防を支援している。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科医を利用している。一人ひとりの力量に合わせて、うがい、義歯洗浄を促し支援している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作成している。一日の栄養摂取量、水分摂取量を把握、日誌へ記載している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防、早期発見、対応マニュアルが作成されている。感染症に関する、最新の情報を収集し資料を回覧し、学習の機会を設けている。インフルエンザ接種は利用者、職員が毎年行なっている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等の清潔を保持するためのマニュアルやとりきめ等は全員に周知され実施されている。食材は週2回の買い物により新鮮な材料を使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先、ホール周囲には季節の草花、樹木、野菜が植えられ、開放されており、家庭的な雰囲気である。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の草花を飾り、廊下、居間には、季節に合った掲示や手作りの品が飾られている。常に室内を清潔に明るく保ち居心地のよい過ごし場所を提供するよう努めている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭や遊歩道、ソファースペース、畳のコーナー等、くつろげる場所が各所にあり、なじみの仲間との交流や、一人になれる場所として活用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人の希望に応じ、愛用していた家具や、生活 用品をそのまま持ち込み使用してもらっている。家 庭的な雰囲気の居心地のいい空間を提供してい る。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	1日4日、温度、湿度をチェックしている。換気 扇、加湿器、エアコン、窓の開閉により臭いや空 気のだよみがないように調節を行なっている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりや柵等を使用し、利用者が残存機能を活 かし、出来る限り自力で行動できるよう、補助的な 支援をしている。転倒などの事故防止にも配慮し ている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人ひとりのわかる力、できる事を把握し、さり げなく介助し自立できるよう支援している。間違 いを防ぐ為、ネームプレートや目印になるものを 設置したりわかりやすい工夫をしている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	雨天対応型の中庭を年中利用や、建物を囲む遊歩 道を利用し周囲の草花、樹木、野菜などを観察 し、交流、憩いの場として活用されている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然（花、農作物、果樹）との触れ合いを四季を通じて行い、季節感が感じられる施設である事。

幼稚園の園児との触れ合いを通じ、行事を楽しみに暮らせる環境作り。

入居者一人ひとりの希望や目標を達成できるよう介護計画を立てる。

四季を通じて屋根のかかった外部空間において談話、運動、レクリエーションや喫茶など、A、B棟の交流も兼ねた活動が天候に関係なく実施できる。特に季節の先取りなど体にやさしい生活ができる。

入居者同士の交流を活発にし、日常生活の活性化策を積極的に行なう。（買い物、外食、小旅行、散歩、ドライブ、カラオケ、トランプ、マージャン等）